

## 平成28年度八重山特支学校評価のまとめ

### 1 評価結果の考察

#### (1) 自己評価（本校職員による評価）

##### ① 全体的に評価の高い項目

###### 1) 子どもの実態に応じた目標の設定、教育課程の編成

「1 教育目標」、「2 教育計画」についての評価が高い。その他、「4 総合的な学習」「5 特別活動」「6 生徒指導」においても「目標設定」や「実態に即した指導」についての評価が高く、指導の根本はしっかり踏まえて職務にあたっているとの職員の自負がうかがえる。

###### 2) 「7 健康・安全指導」

日頃から養護教諭と担任等が密に連携し、幼児児童生徒の健康管理に努めており、また、災害等を想定した避難訓練については、実効性を高めるため内容の見直しに真摯に取り組んでいる。さらに、健康安全上の緊急事態を想定したシミュレーションを各学部で実施（小学部では、各学年で1回。計6回の実施を計画）しており、これらの取り組みが高評価につながったと考えられる。

###### 3) キャリア教育を中心とした研究・研修の充実

平成27・28年度、県教育委員会の研究指定を受け「キャリア教育」の充実に取り組み、12月2日に研究報告会を行ったところである。

研修部を中心に、寄宿舎指導員、養護教諭、栄養教諭、図書司書も含め、職員一丸となり計画的に研究に取り組んできたことが「9 キャリア教育」「11 研究・研修」において、充実した研修ができたとの評価につながったと考えられる。

###### 4) 学校間交流の適切な実施

「10 交流及び共同学習」において評価が高い。各学部とも学校間交流を計画的に実施しているが、加えて、交流時の児童生徒の表情や、事前事後学習への取り組みの姿勢等から、職員が実施の成果を感じていることが考えられる。

###### 5) 寄宿舎に関する評価

寄宿舎指導員による当該評価は、全ての項目で高評価である。日常生活の指導以外でも、誕生会の企画・運営、疑似映画館体験、買い物等、主体性を育むために様々な手立てを講じており、成果の実感が評価につながってと考えられる。

##### ② 全体的に評価の低い項目

###### 1) 「3 指導の充実」の「⑧ 情報機器を活用した指導」

児童生徒アンケートでは概ね高評価である。指導する側がさらなる活用の可能性を感じての評価結果と考えられ、今後の活用推進が期待される。

###### 2) 「3 指導の充実」の「⑨ 教材・教具備品の整理、活用」

「3 指導の充実」の「④ 自立活動の教材・教具の工夫」「⑤ 生活単元学習の教材・教具の工夫」の評価も低くなっており、教材研究に工夫の余地があるとの職員の思いが見てとれる。また、教材の活用ではなく、整理、共有等が課題とみなされている可能性もあり、次年度、設問を見直し、課題の焦点化も図っていきたいと考える。

###### 3) 「13 家庭・関係機関との連携」

本項目については、学部間の差が目立つ。成長とともに支援、生徒指導に係る問題が大きくなることも背景として考えられるが、職員が感じている連携のニーズが満たされない原因を各々分析し、改善に努める必要がある。

#### (2) 児童生徒アンケート

○「1 学校は楽しい」の評価が全体的に高い一方で、学部によっては「3 友だちと仲がよい」「5 学校は明るく楽しい」など、人間関係、学校の雰囲気に係る評価が低くなっている。また、高等部では、「4 いじめ」に関する訴えも見られるため、実態把握及び対応を迅速かつ継続的に行う。

○「2 授業はわかりやすい」の評価が高い。「9 いろいろな活動ができる」「10 ていねいに教えてくれる」「12 工夫してわかりやすく教えてくれる」の評価も高めであることから、職員の指導の工夫を感じている様子がうかがえる。

○「11 先生がほめてくれる」「15 気軽に相談できる先生がいる」等、人間関係や職員の対応に関する項目について、学部によって、低い評価となっている。

#### (3) 保護者アンケート

○全体的には概ね肯定的な評価をいただいているが、個別の事案について、対応への不満や要望の声があがっている。これらについては、真摯に受けとめ、幼児児童生徒の成長に向け対応に努めていく。

## 2 課題及び改善策について ※否定的な評価が2割を超えた事に関して取り上げる

### (1) 小学部

課題 (否定的評価の割合)	対応、意見、改善策
<b>自己評価</b>	
3 指導の充実	
⑧情報機器を活用した指導を行う。 (38.5%)	子ども達によるiPad使用については定着しているが、日常的に情報機器を活用した授業設定は少なく、今後、情報機器に詳しい職員を中心に勉強して活用する機会を増やしたい。
⑨教材・教具備品が適切に整理され、活用されている。(23.1%)	過去の備品がたくさんあり年に2回整理している。もう少し使い勝手のよい配置・表記で整理し、教材をムダなく活用していけるよう工夫する。
9 キャリア教育 <sup>※1</sup> ①学校や幼児児童生徒の実態を踏まえたキャリア教育全体構想図 <sup>※2</sup> やキャリアプランニング・マトリックス <sup>※3</sup> を活かし「キャリア教育」の視点を取り入れ授業を進めている。(23.1%)	キャリア教育全体構想図等を踏まえ、各発達段階における指導の目標を再確認し、それを意識して日々の授業に取り組むようにする。
12 環境美化 ②マスタープラン <sup>※4</sup> にそった環境整備を推進している。(23.1%)	緑化に関する整備計画の内容があまり周知されていないことも課題の一つである。環境部を中心に緑化計画の実施に努めるとともに、周知の強化も図っていく。
14 職員連携 ②八特クラブ <sup>※5</sup> に積極的に参加し職員間のコミュニケーションを図っている。(53.3%)	八特クラブに参加したいものの、他の業務を優先させてしまう現状があるので、声かけしあって積極的にリフレッシュできるようにしたい。
<b>保護者アンケート</b>	
個別学習の課題を色々用意してくれているが、内容がずっと変わっていないようにも感じる。積み重ねの重要性もあると思うので、要望する内容に悩む。(意見・要望)	学級によっては担任が引き継ぎ者の場合もあり、同じ課題を継続しているケースがあります。学習の定着を狙うため、その他の学級でも同様な状況が見られます。 指導は、子どもたちの中長期的な目標を踏まえ、行う必要があるため、学部で話し合い、お互い意識して子どもの状況に応じた課題設定をしていくよう努めていきます。

※1 キャリア教育： 望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育。

(平成11年12月6日中教審の報告より)

本校では、「就労」も含めた将来の生活がより豊かなものとなるよう、子どもたち一人一人の実態に応じて、必要な知識、技能、態度を育てることを目指して取り組んでいる。

※2 キャリア教育 全体構想図： キャリア教育の意義を確認し、個に応じた適切な目標設定、指導が行えるよう、本校の教育目標と本校におけるキャリア教育の目標との関連や各教科等で指導する内容等との相関関係を示したものの。

※3 キャリアプランニング・マトリックス： 本校においてキャリア教育を進める際、系統立てて継続した指導ができるよう、幼・小・中・高の各段階で育てたい力を具体的に示し一覧表にまとめたもの。

※4 マスタープラン： 学校全体の緑化に関する基本計画。緑化の観点から豊かな教育環境作りを目指し、花木の植栽だけでなく花と緑に触れ合うための設備の整備等も含め、総合的に取り組む内容を示している

※5 八特クラブ： 本校では、福利厚生の一環、職員間のコミュニケーションの場として、運動、芸能、料理等を全職員で楽しむための時間を定期的に設定している。「八特クラブ」はその取り組みの呼称。

## (2) 中学部

課題（否定的な評価の割合）	対応、意見、改善策
<b>自己評価</b>	
3 指導の充実 ⑨教材・教具備品が適切に整理され、活用されている。（21.4%）	学部教材や備品が増え、教材庫に収まらない状況である。毎年度末整理しているが間に合っていない。活用しやすい様整理する。
⑩関係機関との連携(ケース会議、情報交換等)を図る。（28.6%）	学校全体として、毎年4月に職員研修で相談支援事業所との顔合わせ会を開いており、学部でも、生徒の特性やニーズに応じた支援体制の構築を目的に、ケース会議や関係機関との情報交換会を適宜開催している。 今後も校内外において、保護者・専門機関・関係機関との連携を図り、ニーズに応じた情報交換の場の設定および活用を推進し、更なる支援の充実に努めていく。
⑪報・連・相を大切にし、全教職員が連携して教育活動を推進する。（21.4%）	年度初めや校内研修等で学部内生徒の共通理解を図ると共に必要に応じて学部会により情報共有を図ってきた。 更なる連携強化に向け、12月より月3回の学部会において各学級、学年の状況を共通確認している。
⑫八特クラブに積極的に参加し職員間のコミュニケーションを図っている。（21.4%）	「八特クラブに参加したい気持ちはありつつも、優先したい仕事が多くなりなかなか参加できずにいる。」との意見がある。 負担軽減とも関連するので学部業務を整理しスリム化に取り組んでいく。
<b>児童生徒アンケート</b>	
友達と仲がよい。（20.0%）	中学部は現在、少人数ながら学級をたたんで複式学級にせず各学年で学級編成を行っている。また個々の学力の向上を目指し、国語、数学は習熟度別の個別指導に近い授業形態をとっている。その為、学級を構成する生徒数が少なく、先生との縦の関係性より生徒同士の横の関係が希薄になりやすい状況である。 今後は、こういった状況を職員一人一人が意識し、生徒同士の活動を増やしていく為、生活単元学習や総合的な学習等で学部全体の学習やグループ活動を増やしていく。
<b>保護者アンケート</b>	
学校は幼児児童生徒の実態をよく理解している。（27.3%）	生徒の実態については小学部からの引き継ぎ、本校小学部以外から転学・入学してきた生徒に関しては転学・入学時に保護者から提出していただいた支援計画作成の為の実態調査をもとに個別の支援計画を作成しながら担任・担当がまず把握しています。その他、今年度よりデイサービス事業所見学を行う等実態の把握に努めているところであります。 次年度以降、これまで以上に学部研修に取組み、実態の把握に努めていくと共に専門性を高めていけたらと考えています。
学校は幼児児童生徒の将来の進路について適切な指導を行っている。（27.3%）	中学部では、小学部と高等部の橋渡しの時期として教育活動全体を通して社会生活や職業生活に必要な基礎的能力や態度を身につけることを目標に各教科の指導を行っています。 また、校内外の実習等を通して働く事の喜びを味わい高等部での作業学習、進路指導へスムーズに

	移行出来る様に努めていきます。
担任に慣れるまで時間がかかるため、担任が途中で変わることをないようにしてほしい。（意見・要望）	<p>中学部では、「学級担任制の小学部」と「作業学習を中心とした教育課程の高等部」との橋渡しの学部として、教科制をとりつつも、生徒の実態を考慮し可能な限り学年組織を持ち上がりにする様配慮しています。</p> <p>また、様々な職員と関わる事で社会生活におけるコミュニケーション能力の育成に努めていく観点でも小学部段階より少しずつ多くの人と関われる環境作りに努めています。</p> <p>担任が中心とはなりますが、上記のように、学年の全職員がチームとして支援できるようにしており、やむを得ない担任の変更について、影響が最小限になるよう努めています。</p>
病気や薬について、知識のある職員に担任をしてもらいたい。（意見・要望）	<p>病気や薬に関しては保健・医療の分野であるため養護教諭を中心に学校医や学校歯科医、学校薬剤師のアドバイスも受けながら連携して教育活動を進めていきます。</p> <p>生命・安全に関わる重要な事項であるため、今後も丁寧にご家庭との情報交換をさせていただきたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。</p>
個別の教育支援をしてほしい。（意見・要望）	<p>保護者と共に個別の教育支援計画を策定し、自立活動や習熟度別の教科指導（国語・数学）を実施しています。これまで培ってきた力を社会で発揮するための日常生活の指導や生活単元学習、作業学習においては個別の授業ではありませんが、個々の能力に応じて役割を与える様配慮しながら授業に取り組んでいます。</p> <p>今後、更なる教育課程の研究を行い、生徒一人一人が社会自立できる様、中学部一同、研究と修養に努めるとともに、個別の教育支援計画策定時の本人、保護者の方々との連携の充実に努めていきたいと思っております。</p>
部活動を、年間を通してやってほしい。（意見・要望）	<p>中学部職員からも、部活動を通して様々な成長が見られるという意見が沢山挙がっています。</p> <p>部活動は、特体連、駅伝大会等と関連させた取組となっており、年間を通して責任を持ってお預かりするのが厳しい状況です。</p> <p>次年度の状況をみて、実施方法及び活動期間の見直しを検討していきたいと思っております。</p> <p>今後とも部活動へのご理解とご協力をお願いいたします。</p>
運動会、八特祭を毎年度やってほしい。（意見・要望）	<p>日々の学習指導と他の学校行事等との兼ね合いより、運動会、八特祭を隔年で実施しています。</p> <p>学習目標の達成に向けた指導時間の確保を大切にしていることですが、運動会、八特祭が、子どもたちにとって重要な成長の機会となっている側面もあります。</p> <p>学校行事については、各学部・学年等での代替となる取り組みも含め、「子どもの成長に資する」という観点から、継続検討していきます。</p>

## (3) 高等部

課題（否定的な評価の割合）	対応、意見、改善策
<b>自己評価</b>	
3 指導の充実	
②保護者と連携し、願いを反映した個別の教育支援計画、個別の指導計画、移行支援計画を作成する。（23. 5%）	普段から保護者と情報共有を行い、本人の実態を確認したうえで、本人・保護者のニーズを踏まえた個別の教育支援計画を作成する。
④自立活動の指導として幼児児童生徒のニーズを把握し教材や教具が工夫された指導を行う。（29. 4%）	PCやiPad等の情報機器、ニーズに応じた自作教材を活用する等、生徒の実態に応じた指導の工夫を行う。また、指定研で自立活動班が作成した段階目標一覧を活用する。
⑤生活単元学習等で興味関心を高め意欲的に参加できるよう題材や教材を工夫し、指導を行う。（29. 4%）	生徒の実態や個々の特性に応じ、地域の特色に合わせた授業内容の創意工夫を行う。また、生徒の意見を授業内容にも取り入れた上で活動を行う。
⑥教科指導で幼児児童生徒の実態を把握し、生活に密着した指導を行う。（23. 5%）	生徒の実態を再確認するとともに、教師間の共通理解を密にし、各教科指導の向上を図る。また、卒業後を想定した生活指導にも取り組んでいく。
⑦個別の指導目標にそって適切な評価をしている。（23. 5%）	指導目標を再確認し評価をおこなう。また、年度途中でも生徒の様子を見ながら、目標設定の変更も視野に入れ評価を行う。
⑧情報機器を活用した指導を行う。（29. 4%）	夏休みに情報実践研修を設ける予定で、そこで新しいアプリや機器の紹介を行っていきたい。
⑨教材・教具備品が適切に整理され、活用されている。（29. 4%）	教材庫の整理を心かける。使いやすい環境を維持して活用する。
4 総合的な学習	
②自主的、自発的に学ぶ姿勢を支援している。（23. 5%）	
6 生徒指導	
②家庭や関係機関と連携して、幼児児童生徒の指導を実践している。（23. 5%）	
10 交流及び共同学習	
①保護者と共通理解が図られ、居住地での交流の計画が立てられ適切に取り組んでいる。（29. 4%）	
13 家庭関係機関との連携	
①家庭との連携(通信・連絡)(個別の教育支援計画、個別の指導計画の理解)を図る。（23. 5%）	
②関係機関との連携(ケース会議、情報交換等)を図る。（23. 5%）	
③関係機関と連携し、本校の幼児児童生徒及び地域支援を実践する。（35. 3%）	
14 職員連携	
②八特クラブに積極的に参加し職員間のコミュニケーションを図っている。（29. 4%）	
<b>児童生徒アンケート</b>	
気軽に相談できる先生がいる。（20. 6%）	
個に応じた声かけを更に意識する。また、生徒の目線に合わせて話しを聞く事も心がけていきたい。	
<b>保護者アンケート</b>	
子どもが問題をおこした際の対応について保護者の意見を取り入れず、学校の都合を優先している。（意見・要望）	
対応については、本人と事実確認し他者との関係性などを確認した後、高等部生徒指導内規に沿って指導を行います。生徒指導については、今後も保護者	

	、関係機関等との連携及び説明に努めていきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。
子どもが問題行動をおこした後、関係者を含めての話し合いの場をもってくれなくなっている。(意見・要望)	時宜を得た話し合いが開催できるよう、早急に関係者や各関係機関への日程調整を係で行い対応に努めていきます。
問題行動が予想される子どもに対し、十分な対策を講じてほしい。(意見・要望)	子どもの特性について教師間で再確認し、適宜、職員等への協力を呼びかけて防止に努めていきます。各場面で問題行動を誘発する要素の排除に努め、本人への注意、声掛けを併せて行うことで未然防止を図っていきます。
学校を訪ねた際、管理職からの声かけがない。保護者、教職員どうしの親密な関係のもと、支援をすべき。(意見・要望)	最低限、挨拶はさしあげているつもりですが、対話については、タイミング、相互の状況を踏まえてのこととなるため、このような印象をもたれたものと推察いたします。保護者の方々との良好な関係構築が図られるよう留意していきます。
高等部3年の担任は、八重山特別支援学校を数年体験し、地元事情のわかる先生になってほしい。(意見・要望)	人事異動による職員配置と校務分掌などを含め検討します。
勉強の時間が少ない。(意見・要望)	カリキュラムを含め検討します。
就労先、グループホームなどの説明会、個別の説明があるとうれしい。(意見・要望)	卒業生の就労先については進路の手引きp22～24に記載されていますのでご確認下さい。グループホームに関しては障がい福祉課が窓口となっていますが連携して対応したいと思います。また、個の進路相談については気軽にご連絡下さい。
生徒の希望、適性に応じて早期(1年生)からの具体的な進路指導を家庭と連携して行ってほしい。(意見・要望)	担任・進路部と確認、検討し進路指導の充実に努めていきます。
文書の作成において、誤字、脱字や不適切な文書のないように気をつけて頂きたい。(意見・要望)	文章を教師間で、相互チェックを行ってから配布します。

#### (4) 寄宿舍

課題(否定的な評価の割合)	対応、意見、改善策
<b>保護者アンケート</b>	
火・水・木に休日がある場合は、舎泊にするなどして、と切れと切れにならないようにしてほしい。精神的な自立が育ちにくい。(意見・要望)	職員の休業日の出勤は原則不可となっています。また、帰宅については、寄宿舍で培ってきたスキルを家庭生活で発揮する事で、より精神的な自立に繋がる良い機会と考えています。今後も、授業や在舎中の活動等を通して、精神的な自立の涵養に向け取り組んでいきます。